

## 今号の内容

- 金子家が“油”を売っていた頃
- 図録紹介「水害と闘う」
- 夏休み古民家むかし体験
- 石工・狛犬・文書
- 秋のイベント情報

## 金子家が“油”を売っていた頃

市民学芸員 松本 恭子



旧金子家住宅

今年2月、ロシアによる突然のウクライナ侵攻により、凄惨なニュースと共に原油価格高騰等のニュースも連日流れるようになりました。この原稿の題材を考えている時期と重なり、ふと旧金子家住宅では油を売っていたことがあったな… と思い当たりました。

食用だったのか？ 灯用だったのか？ 計り方は？ 器は？ 価格は？ 営業時間は？

ふつつつと興味と疑問が湧きました。

資料館の方に質問したところ、金子家は菜種油を灯用に、お客さんが持ってくる“とっくり”に注いで売っていた、と教えてもらいました。そして、当時の金子家の資料はほとんど無く分からないことが多い、というのが現状だそうです。

しかしながら以前、企画展で『昔の灯り』をテーマにしたときに作成したという「天保13年(1842)鶴馬村の日当・物価一覧表」をもらいました。

驚きました。なんと灯油の高価なこと！ 一合で46文、今の円にすると1,840円です(1文を40円で換算)。当時の職人さんの1日の日当が246文=約1万円。白米が1kg74.1文=約3,000円。お酒(並)が

1升132文=5,280円、だったということ。

だから、当時の人は高価な油を大切に、日の出と共に起きて、日没と共に眠るという生活をしていたといわれるのかな？ と思いました。また、江戸時代の字が大きいのも、そのように灯したあかりでも読めるようにとのことでした。

また、油関係の言葉も沢山あることに気がきました。「火に油」「油断大敵」「油紙に火」。さらに仏典の中にも、仏法を弘める人を迫害するのは、不純な油を売ると同等に罪が重い、ともあります。

古今東西、油は人々の生活に密接な関わりがある一方で貴重なものだったようです。

今年の夏、節電が呼びかけられ、大規模な通信障害も発生しました。

旧金子家住宅の縁側でこの原稿を書いていると、約束もせずに会って笑う人々、ちょっと蔵市やお日様の下で遊ぶ子供達の光景が目に入ります。

ひょっとすると、これからまた良い面でも悪い面でも油が貴重だった頃の生活に戻っていくのかな、そんなことを感じたひとときでした。

市民学芸員のページ \*このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

図録『水害と闘う』

富士見市は、北から南に荒川と新河岸川が流れ、南部には柳瀬川が流れています。

本図録は、水運や河川を利用してこの地域で農業が営まれてきた一方で、多くの水害に見舞われ、住民たちが水害と闘ってきた歴史を、資料や写真等を交え紹介しています。

水害の歴史をたどると、古くは鎌倉時代に武州入間川が氾濫、江戸時代に入っても十数回も堤防が決壊、住民はその都度堤防を修復するなど大変な努力を重ねてきました。水害から命を守るため難波田の住民たちは、江戸時代に高台のみずほ台や鶴瀬の土地を開墾、幕府に願いで「難畑」という名称を「南畑」に変えたと「新編武蔵風土記稿」に書かれています。

明治になっても昭和から現在に至っても洪水被害は止むことはありませんでした。図録ではとりわけ弘化三年(1864)の大洪水、明治四十三年(1910)年の大水害を古文書や写真で詳しく紹介、さらには宗岡村と争った佃堤相論、荒川の右岸と左岸の争いなどについても詳しく記載しています。



資料館窓口にて 300 円で販売中

地球温暖化による異常気象が多発しているといわれる現在、いつまた大水害が私達を襲うかわかりません。過去の歴史を知ることが大切です。  
(渋谷 晃)

おもしろ・なつかし体験 ⑦④

夏休み古民家むかし体験

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

難波田城公園では、夏休みに市内の小学生が参加して、「古民家宿泊体験」を実施してきました。

今年も、コロナ拡大を考慮して、規模を縮小し、宿泊をしない「古民家むかし体験」となりました。8月6日に7名の小学生が参加して実施しました。

参加者は、園内に2棟ある古民家のうち旧金子家住宅に集合し、職員、学芸員実習の大学生2名への自己紹介から体験がはじまりました。

園内の探検の後、長屋門で青竹から自身が使用するコップと箸を作ります。金子家の縁側の前では、スイカ割りです。参加者は一人ずつ目隠しをして「右々 左々」の応援でスイカ割りに挑戦しました。おやつにスイカを食べた後は、座敷でミニあんどん作りに熱中しました。

夕食準備もむかし体験です。囲炉裏に五徳とホウロクを準備して、園内で採れた大麦を焙煎し麦茶を作り、小麦は石臼でひいて小麦粉にして、スイトン汁を作りました。おかずのシャケは七輪で焼きます。食事のスタイルは、昔の銘々膳を畳敷きの部屋に置き、間をあけて座って黙食です。

夕食後に怖い話を聞き、涼しくなった後は、花火を楽しみました。そして感想文を書きながら午後8時に家族のお迎え。みな嬉しそうに満足げに家路につきました。(松村 利訓)





## 人の創ったもの★人の使ったもの

## 石工・狛犬・文書

今回は、8月から穀蔵展示「富士見の職人たち」で新たに展示を始めた石屋(石工)の残した市内の作品について取り上げたいと思います。

## 水子の石屋

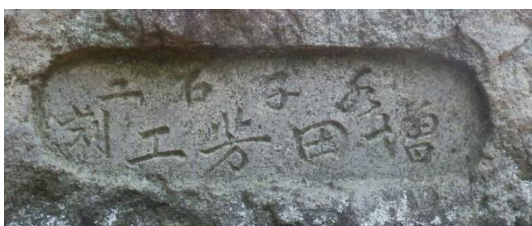
水子の増田さんのお宅は、かつて四代にわたり、石材を仕入れ、製品を作り上げる石屋(石工)を営んでいました。その期間は幕末から昭和までの長きにわたります。

## 石工の残した作品

増田家四代の石工の製作した品々の多くは、名が刻まれない墓石、石臼、カマドなどでした。その一方でいくつかの品には製作者名(号)が刻まれ、今日もそれぞれの石工の仕事を垣間見ることができます。現在、市内に20数件の作品が残されています。

市内に残る増田家が手がけた主な石造物

初代(代三郎)	勝瀬・榛名神社鳥居	慶応3年(1867)
二代(亭太郎)	水子・甲子大黒天	明治29年(1896)
三代(代次郎)	東大久保・阿蘇神社手洗石	明治41年(1908)
	水子北側・氷川神社狛犬	大正15年(1926)
四代(登代三)	水子・八幡神社向拝増築碑	昭和15年(1940)



氷川神社(水子北側)にある狛犬と台座の銘

このコーナーでは、地元に関する資料を紹介します。普段気に止めないものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

例えば、この水子北側氷川神社の<sup>こまいぬ</sup>狛犬にある銘の一つに「水子石工増田<sup>ほうこう</sup>芳工刻」とあります。「芳工」とは、三代目代次郎さんの号です。このことからこの狛犬の作者は三代目代次郎さんであることがわかります。

## 行政文書に残された作品の記録

石工の作品として残るのは製品そのものです。ところが、行政文書に作品の記録が残された事例があります。しかも、作品の「絵図」が残されているのです。それが下図になります。



狛犬縮図

(埼玉県立文書館行政文書、大 1782-37「入間郡水谷村氷川神社境内唐獅子建設許可」より)

ではなぜ、このようなものが残されたのでしょうか。

戦前、埼玉県では国で定められた法令の影響で、神社境内に狛犬や記念碑などを設置する際に県に願い出て許可を得る形になっていました。その際、絵図を添付するものと規定されていました。絵図は実際とかけ離れていることが多いとされていますが、この絵図は像の姿勢など比較的実物に近いものといえます。

他に届け出の文書には、唐獅子(狛犬)の<sup>ほうのう</sup>奉納者、

当時の氏子総代、神職についてや、狛犬の部位毎の石材の産地(白河石)も記載されており、実物にはない情報も得ることができます。

## モノと文書と

今回のように、地元のモノ(石工の作品)に関することを調べる中で、思わぬところで文書(県へ届け出た文書)に行きつくこともあります。これも調査の一つの醍醐味ではないでしょうか。(田ノ上 和宏)

(参考文献)

伊藤正和 1993. 石を刻んで四代(石工増田家). 埼玉民俗 18: 34-57

佐藤美弥 2022. 戦前・戦時期埼玉県における石造狛犬建設許可に関する文書について—#101匹の埼玉狛犬—によせて一. (埼玉県立)文書館紀要 35: 59-68

## ＊ ＊秋のイベント予定＊ ＊

掲載したイベントは、新型コロナウイルス感染症の影響で中止・変更となる場合があります。

### ●マイ・ミュージアム

おおはざまきよし

#### 大峽 淳 水彩画展「難波田城公園 その魅力」

とき／8月30日(火)～9月25日(日)

会場／特別展示室

### ●ふるさと体験「お月見だんご作り」

とき／9月23日(祝) 午前10時～正午

定員／8組(申込み順) 参加費／500円(材料代)

会場／旧金子家住宅 協力／市民学芸員ほか

持ち物／エプロン、三角巾、持ち帰り用の容器

申込／9月3日(土)～9月11日(日)に電話で

### ●富士見市児童・生徒「社会科展」

市内小中学生による、夏休みの自由研究の作品を展示します。各校から選ばれた約80作品です。

会期／10月1日(土)～10月10日(祝)

会場／特別展示室 主催／水子貝塚・難波田城資料館

### ●ふるさと探訪

#### 鶴馬の湧き水と寺社を巡る

とき／10月1日(土)午前9時30分～正午

集合／鶴瀬駅東口ロータリー ※小雨決行

主な見学地／谷津の森、下鶴馬氷川神社・屋敷林、

来迎寺、市民緑地「御庵」、雲居の滝

定員／20人(申込順) 持ち物／飲み物、雨具

参加費／500円(保険料等、当日集金)

申込／9月29日(木)までに電話で

主催／資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

### ●令和4年秋季企画展

#### 「写真でたどる富士見市の50年」

会期／10月15日(土)～1月9日(祝)

会場／特別展示室

※入場無料

### ●さつまいも掘り

とき／10月16日(日)午前10時～、午前11時～

(小雨決行。悪天候の場合翌週に延期)

定員／各12組(申込順) 集合場所／旧金子家住宅前

参加費／1組1,000円

持ち物／持ち帰り用の袋、シャベル

申込／10月1日(土) 午前9時から電話で

主催／難波田城公園活用推進協議会

### ●難波田城公園まつり

とき／10月23日(日) 午前10時～午後1時30分

会場／難波田城公園内

詳しくは広報「富士見」10月号で

### ●さきおり教室(全3回)

とき／①11月5日午前10時～正午 ②11月8日(火)、

9(水)、11(金)、13(日)の午前・午後のうちいずれか

2時間 ③11月19日(土)午後1時～3時

定員／8組(申込み順) 参加費／500円(材料代)

会場／旧大澤家住宅 指導／ふじみ手織りの会

持ち物／材料用の布、はさみ、筆記用具

申込／直接または電話で

### ●麦づくり体験(全7回)

	日時	内容
第1回	11/12(土)10時～12時	種まき
第2回	1/28(土)10時～12時	麦踏み・土入れ
第3回	3/4(土)10時～12時	草取り・土寄せ
第4回	6/10(土)10時～12時	収穫
第5回	6/25(日)10時～12時	脱穀
第6回	7/8(土)10時～12時	精選
第7回	7/23(日)10時～13時	石臼・焙煎・試食

定員／8組(1組4人以内、申込順)

対象／市内在住・在学・在勤者を含む家族又は友人

参加費／1組500円(通信費・食材費等)

協力／難波田城いきものがかり

申込／10月1日(土)から電話で

### ●ミニほうきづくり

とき／11月26日(土)午後1時～3時20分

場所／講座室 対象／中学生以上

定員／6人(応募多数の場合は市内在住の方優先)

費用／400円(材料代) 持ち物／エプロン

指導／ほうき作り伝承会

申込／11月1日(火)午前9時から電話で

### ●ちよつ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

9月25日(日)ぼたもち

11時より販売。

売り切れ次第終了

※イベントなどの詳細は、広報ふじみ、公式サイトなどでお確かめください。

田舎まんじゅう販売  
第1.3日曜日 10:30～



富士見市立難波田城資料館

Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

[https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi\\_shisetsu/02shisetsu/shiryoukan/nanbatajo/index.html](https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryoukan/nanbatajo/index.html)

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)



資料館公式サイト